

日本人がより英語で話せるようになるには

3年3組5番 稲田真由子

Keyword: 「英語教育」「発音」「異文化理解」「コミュニケーション」「つながり」

1. はじめに

私がこの探究をしようと思ったきっかけは、アメリカへの留学である。私の通っていた学校は語学学校であったため、母国語を英語としない外国人と関わることが多かった。その際に、自分の発音の悪さやリスニング能力の低さを感じ、話しかけられてもうまく返せず立ち去られてしまうことが多かった。その時私は、自分の英語能力を向上させ、その人たちと同じ言語で話したいと思った。また、今、他国に比べて、日本人の英語能力低下が問題視されているなかで、私と同じように英語能力を向上させたいという人がいるのではと思い探究しようと考えた。

2. 序論

まず、私は日本人の英語能力が世界的にどこに位置するのか調べてみた。2025年度におけるEFの英語能力指数によると、日本は96位で前年度よりも4位も下落していた。このことから、やはり日本人の英語能力は低いと考えられる。

そこで私は、なぜ英語能力が低いのかを考えた。その理由として、英語を学習するタイミングが遅かったり、特に高校では大学受験のための英語を重視しているため、英会話における英語との触れ合いが少ないなどが考えられる。

その中で、まず仮説としたのが、「日本は海外に比べてグループワークが少なく、問題を解く授業が多いため英語で話せない人が他国に比べて多い」というものだ。しかし実際に在日外国人や留学生に母国での学校の教育について聞いてみると、特に会話練習が多いというわけではなく、日本の英語教育とあまり差がなかった。

では、何が他国と比べて違うのか考えた時に、英語で学べる環境や発音の流暢さに気づいた。学校では学べることも、学び方も限られていることがあるので、いろんな活動をされているラボパーティという英語教室にインタビューを行った。

ラボパーティでは子供から大学生まで実際に英語を使いながら楽しく学ぶことができ、私が考える英語で話せるための理想の教育方針と近かった。インタビューでは、組織の活動内容や特徴から、なぜ日本人は英語が話せないか、話せるようになるためにどのようなことが必要かなど幅広く質問をした。ラボパーティでは、英語でただ話せるようになるだけではなく、教室内でのグループ活動や課外活動を通して英語で話しつつ人としても成長できる場を提供しているそうである。

さらに、発音も英語で話すためには必要な要素だと考える。留学先でも、母国語を英語としない人であるのに英語を流暢に話していて、とても憧れを持った。発音が良ければ自分の言いたいことがより伝わり、相手の言いたいことも理解しやすくなる。そのため私は、自分も興味がある発音についてより深く探究を始めた。

私は、英語を話す上での流暢さと発音の関係について、「発音学習の意識の低さや日本語には無い音の発音の難しさから、他国に比べて発音が良くない」という仮説を立てた。そして、それを立証するためにアンケートや実験を行った。

まず、国際高等学校・中学校の生徒と母国語を英語としない英語科の教師にアンケートに答えてもらった。そして、その結果を参考に言語実験を行った。言語実験①では、iPadのキーボードにある音声機能を用いて、実際に一回だけ英語を発音してもらった。その後様々な国のネイティブの発音を聞いて、気づいたことを書いてもらった。また、自分の発音タイプが調べられるサイトを用いて自分の発音がどの国に近いか楽しみながら診断してもらった。言語実験②では、kahoot

を用いて実際にネイティブの発音を聞いて正しいスペルの単語をクイズ感覚で楽しみながら選んでもらった。こうした2種類の実験をすることで、発音は話す時だけではなく、聞く時にも大事ということを改めて認識してもらった。

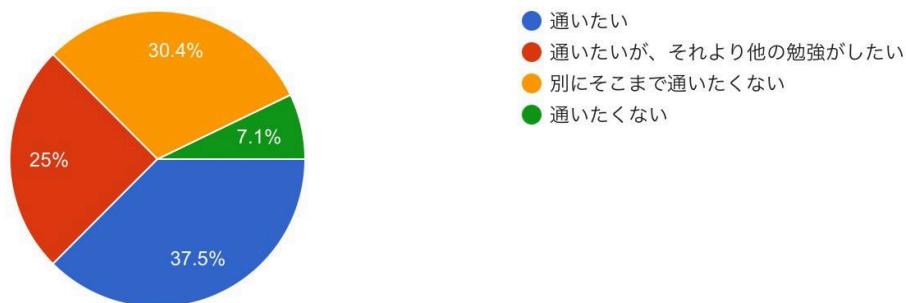
3. 本論

まず、生徒にとったアンケートでは、「発音の勉強をしたことがある」人が65%を超えており、発音に自信があるかという質問でも「普通よりのある」人も含めて40%近くの人が「ある」と答えていた。私は、学校で発音に特化した授業というものはなく、発音は受験に対しての重要度も低いため勉強したことがある人は少ないと考えていた。しかし、実際は発音の勉強をしたことがある人が5割を超えており、自分の仮説の一つである発音学習の意識の低さとは少し違った結果となつた。

次に母国語を英語としない英語科の教師にとったアンケートと生徒のアンケートを比較した。「英語で話すために大事だと思うこととは?」という質問に対して、生徒では、スピーキングが一番多いのに対して、教師では、リスニングが一番多かった。このことから、もちろん英語で話すためにスピーキングは大事だが、まず聞き取ることが出来ないと、円滑なコミュニケーションをとることは出来ないと考察した。リスニングとスピーキングの両方に関係する発音であったり、音のつながりというのは、英語で話すために必要な要素といつても過言ではない。そして、生徒と教師のどちらともに質問した「発音に特化したスクールに通うことができる場合通いたいですか?」では、生徒と教師で明らかに違う結果を得ることができた。以下はその結果をまとめた図である。

そのスクールに通うことができる場合、通いたいですか？

56 件の回答



もし先生方が高校生の時に発音に特化したスクールに通える環境にあったなら、通いたいと思いますか？

6 件の回答



上が生徒の結果で下が教師の結果である。まず、上を見ると「通いたい」や「通いたいが、それより他の勉強をしたい」という人は60%を超えているのに対して、教師の結果では、両方を合計し

ても30%を少し超えるくらいであった。また、発音に特化したスクールがあることを知らない人が80%近くいることから、発音に特化したスクールに通うことで、発音が流暢になるという期待が生徒にはあったため、通いたいと回答した人が多かったのではないかと考える。

一方で、教師の方が少なかった理由として、発音に特化したスクールに通わなくても発音を身につけることができるためだと考える。教師に聞いた発音の勉強方法でも、「ネイティブの発音をまねる」や、「自習学習をする」、「音を聞いてディクテーションやシャドーイングをする」などスクールに通わなくても自分で家でできる勉強を行っていたことがわかった。

そしてこのアンケートをもとに、言語実験を行った。言語実験には、高校生が2人、中学生が1人、合計で3人の生徒が参加してくれた。言語実験①の方では、RとLや、VとB、TとSなどの発音が似ているものを発音してもらったり、日本語と英語では発音の仕方が違うVitaminやChaosなどを発音してもらった。そしてネイティブの発音を聞いた感想を聞いてみると、自分が思っていた発音とは違うことが多く、また、アメリカとイギリスとでは発音が違うということもあり、イギリスとアメリカとの発音の違いについても述べていた。また、BoldVoice Accent Oracleという英語の文章を読むだけで自分がどの国の話者に発音が近いか知ることができるサイトを用いて、みんなで自分の発音タイプを調べてみた。実験しているところを見ていると、すごく楽しみながら実験に協力してくれたり、ネイティブの発音を聞いた時には発見や驚きがあったりして、実験の資料を得るだけではなく、発音について楽しんでもらうことができて、良かったと思う。

次にkahootを用いて行った言語実験②では、発音とスペルが似た単語を4択で出し、実際にネイティブの発音を聞いてクイズ感覚で回答してもらった。例えば同じ単語の派生系はスペルが似ている上に発音も似ているので間違える人が多かった。また、実験①と同様に、RとLとの区別が難しく、単語の難易度ではそこまで難しくなくても、なかなか聞き分けることが難しいことがわかった。そして、この実験に参加してくれた人に感想を聞いてみると、発音は難しいけれど、この実験を通して少しの変化でアクセントも変わることに興味を持ってくれたり、よく使っている単語でもいざ聞くと思っていた発音と違ったという発見があったなど、みんな発音について興味を持つてくれる人が多かった。

4. 結論

アンケートや言語実験の結果から、発音は話す時に必要なだけではなく、聞く時にも必要であることが明らかであると考える。まず、アンケートやインタビューをすることで、主観的で偏った意見だけではなく、外国人や、英会話スクールで働いている人、生徒、教師などの様々な立場から客観的な意見を得ることができて、新たな英語であったり発音の見方や感じ方があった。また、言語実験①からは、実際に一回だけ発音をしてもらい、ネイティブの発音を聞いてもらうことで、どの文字の発音が難しいのか、また実際に思っていた発音と実際に聞いた時のギャップを確認してもらうことができた。

そして、言語実験②では、実験①とは逆にネイティブの発音を聞いてそれに合った単語を選んでもらうことで、リスニング時や外国人とコミュニケーションをとるときに発音がどれだけ大切かわかったし、英語を学ぶうえでも、ただ単語を覚えるだけではなく、発音も一緒に聞きながらインプットすることで、より英語が聞こえるようになると思うのでより効率的だと考える。また、最近ではTikTokで英語発音ゲームが流行しているように、友達と楽しみながら発音について知る機会をつくることで、興味をもってもらったり、ゴールに到達するために発音を良くしようとするため、英語学習の向上が期待できる。

今後の課題や今回の探究で明らかにできていないこと、上手くできなかっこととして、まず言語実験の参加者の少なさである。もちろんみんな忙しいのもあり人数があまり集まらなく、実験としてはしっかりとした数値を得ることができなかっことが気がかりである。次に実験で得たことをもとに発音に特化したスクールの方にインタビューをして、ちょっとした冊子を作り、みんなに伝えところまで探究を進めたかったが、そこまで進むことができなかった。そして、留学生や在日外国人に行ったインタビューで日本と海外とでは学習方法にここまで違いがなかったことが明らか

となつたが、まだ、なぜ日本人は英語を話せる人が少なく発音も流暢に話せる人が少ないのか明らかになっていないので、これから機会があれば明らかにしたい。

5. おわりに

私はこの探究を通して以前より客観的に物事を見ることができ視野が広くなったと考える。以前は物事に対して自分ならどう思うかだけ考えて、とても偏った情報になることが多かった。しかし、探究をするなかでインタビューやアンケート、言語実験など、普段の生活ではしないことや、関わることのない人たちと関わることで、自分以外の人の物事の見え方が様々あることを学んだし、客観的に考えることでより、論理的に思考することができるようになったと考える。そして、これからは、周りを見ていろんな視点から物事をみれるように頑張りたい。

6. 参考文献・出典

クリストファー・マコーミック博士,ケイト・ベル.「EF EPI 2025-EF英語能力指数」『EF』.
<https://www.efjapan.co.jp/assetscdn/WIBIwq6RdJvcD9bc8RMd/cefcom-epi-site/reports/2024/ef-epi-2024-japanese.pdf> (2025)

「英語教室ラボパーティで身に付くのは自主性・表現力を兼ね備えた英語力」『ぽてん』.
<https://poten.jp/learn/laboparty/> 2024年 4月 22日

Do you have an accent when speaking English? BoldVoice Accent Oracle
<https://start.boldvoice.com/accent-oracle> (n.d.)

「発音ガイドForvo。世界中のあらゆる言葉をネイティブ」『Forvo』<https://ja.forvo.com> 閲覧日 (2025. 6)

田中佑委・内田翔大(2022).「日本人英語学習者が発音困難な音声要素は何か 音声認識システムを使用したミニマルペアを含む英単語発音実験による検証」『和洋女子大学 英文学会誌』、57. 49-62.
<https://wayo.repo.nii.ac.jp/record/2083/files/%E7%94%B0%E4%B8%AD%E3%83%BB%E5%86%85%E7%94%B0%282022%292022%E8%8B%B1%E6%96%87%E5%AD%A6%E4%BC%9A%E8%AA%8C.pdf>

手島良(2011.4).「日本の中学校・高等学校における英語の音声教育について-発音指導の現状と課題-」『音声研究』、15(1). 31-43. https://doi.org/10.24467/onseikenkyu.15.1_31